

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 3年次および4年次生における履修単位数上限を50単位未満とする	→3年次および4年次生における履修単位数上限	A
2. 教員・学生間の学習上の双方向性を向上させる	→ミニッツ・ペーパー、小テストなどの利用数及びフィードバック状況、学生による授業評価など	B
3. 到達目標および科目相互の関連性に配慮したシラバスを作成する	→シラバスにおいて到達目標および科目相互の関連性を明示している授業数	C
4. 多面的な評価方法に基づく明確な評価基準を導入する	→多面的な評価方法と明確な評価基準を導入している授業数	B
5. 少人数教育を徹底する	→基礎演習・インターミディエイト演習などの演習クラス定員減員（20名以下）	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

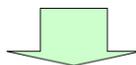
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.3.1	(方針) 教育の方法及び内容に関するイノベーションを通じて、主体的な学びを引き出し、知識、知的スキル、人格のより高度な成長を実現する。 (現状説明) 履修単位数上限については2010年度以降入学生から「全学年で半期24単位」に学則改正を行っており、2013年度には所期の目標が確実に達成される。
☆ 小項目6.3.2	(現状説明) 1年生対象のオムニバス形式のリレー講義において、毎回の授業でレポートを課し、その速やかな採点を通じて一定のフィードバックが達成される仕組みを構築した。他の授業においてもフィードバックが推奨されている。
☆ 小項目6.3.3	「明確な評価基準」に関してはシラバスにグレーディング基準を明記する形で実現済みである。「多面的な評価方法」については、それを測定するための指標を検討しているところである。
☆ 小項目6.3.4	社会心理領域、およびリサーチ講義科目領域において、科目間の関連性に配慮した調整が行われ、段階履修的な要素がカリキュラムに導入された。他の領域は、これらを参考に科目連携のモデルを構築していく予定である。
☆ その他	インターミディエイト演習については少人数編成が徹底され、全クラスが20名以下とされた。基礎演習については、新入生が対象ということによるロジスティックスの制約から、一部に25名程度のクラスが発生したものの、おおむね20名以下の編成とした。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○「現状説明」が的確で、どの小項目についても着実な前進が見られることは評価できます。

【学内委員】

○演習について、20名以下の少人数編成を基準としておおむね実現しているのは評価できます。小項目6.3.2と6.3.4の現状説明は項目の趣旨と少し違うように思われます。

○履修単位数の上限を設定することで、より内容の濃い教育が行われると思われませんが、現時点では学則改定実施途上の状況である点を踏まえて、進捗評価の記載内容を変更することが望まれます。

○小テストなどを実施することにより、双方向性のある教育が行われている点は大変評価できます。

○少人数教育の点についてもほぼ目標が達成できていると思われ、その点は評価できます。

○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)において、水準評価として数値による評価がなされるものに注意してください。「3-1. 学士課程の教育内容・方法(2) 教育方法 ② 1年間に履修登録できる単位数の上限を50単位未満で設定している」については、本水準を満たしていない学年があり助言対象となる場合があります。改善に向けご努力ください。

「意見交換」「Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述」後の追記

○上記【学内委員】評価の2番目、5番目の評価の基礎となる「年間の履修単位数制限のデータ」に誤りがあることが判明しました。社会学部における2010年度入学生の履修可能単位数は全学年50単位未満で設定されているにもかかわらず、3年次56単位、4年次60単位となっていました。従って、5番目のコメントを取り消します。また、2番目の評価コメントは2009年度以前の学生が在籍するため進捗評価についてコメントしていますが、学部としては制度的にはこれ以上対応することが出来ないため、上記評価コメントを取り消します。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

学内委員からの評価のうち、第2および第5はいわゆるキャップ制に関するものですが、評価そのものが明らかに不適切です。

まず、2005年以降入学生については、すでに第1～2学年度の年間履修可能単位数を上限48単位に設定しており、実質的にはほとんどの学生が大学基準協会の要請を満たしています。さらに、「現状説明」にも明記した通り、2010年度以降入学生からは形式的にも要件を満たすべく、全学年について年間の履修可能単位数を上限48単位とする学則改正を行っており、以後の入学生にも順次その基準が適用される結果、2013年度にはすべての学年について所期の目標が確実に達成されます。

この現状に対して意見が付いたということは、すなわち、2名の学内委員が、最新の学則改正の内容を2009年度以前入学生に遡って適用すべしとのお考えをお持ちであると拝察されます。

★ しかしながら、学生に不利益(履修可能単位数の削減)を生ぜしめるような学則改正を入学後に一方的に適用することは明らかに契約に関する公序良俗に反しますし、本学の慣習とも合致しません。

今一度、現状説明をお読みのうえ、評価の再検討をお願いします。

6.3.2 (追記) シラバスは全科目に課している。シラバスに記載する項目として授業の目的、授業内容、授業方法、成績評価方法及び基準、学生による授業評価の方法を設けている。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

<個別的な指標>
